

8/21 『クリスチャンライフの恵み』（エペソ4：17～24）

長谷川 望牧師

- * 「召しにふさわしく歩む」歩み方について、パウロは異邦人との対比でお勧めしている。彼らは「空しい心」で歩んでいる。それは「無知（神を知らない）」と「かたくなな心」（自己中心）に現れている。彼らは「神のいのちから遠く離れています。」という。そうすると「道徳的に無感覚になり」、好色で不潔な行いが横行し、性道徳が乱れる。人間は自己欲のまま歩むと必ず道徳的に放縱に向かう。欲は限りがないからである。
- * ジョン・ホワイトという精神医学者は「教会と性的罪について」という本の中でクリスチャンは自分の情欲をどうしたらコントロールできるかについて3点述べている。まず、私たち人間には性的喜びを与えられていることを神に感謝すべきであること。次に、性的喜びは生きる上での副産物であり目的ではない。喜びを目的として追い求めても満足することはなくかえって幻滅する。一方、神を求め神に従うことに人生をささげらる中で得る性的喜びは適度にコントロールされる。3つ目は、性的喜びは結婚生活の中のみ楽しむように造られている。夫婦の互いの信頼関係の中で二人の愛をあらわし、互いを一層深く知るようになる。
- * 異邦人のようにではなく、エペソの信徒たち、あなたがたは、神のいのちの中にあつたので。キリストを正しく学んだはずである（4：20～21）という。「その教えとは、あなたがたの以前の生活について言うならば、人を欺く情欲によって滅びて行く古い人を脱ぎ捨てるべきこと、またあなたがたが心の霊において新しくされ、真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人を身に着るべきことでした。」（4：22～24）私たちも、神を知らない、キリストを知らない、本当の救いを知らなかった時は罪人であることを自覚していない罪人であった。しかし、神はぼろぼろの服を脱ぎ捨てさせてくださり、全く新しい服を着せてくださった。キリストを着せてくださった。「神にかたどり造り出された」新創造である。キリストによって私は造り変えられ、罪の赦しと永遠のいのちを得ている。取り消されることはない。
- * クリスチャンライフとはキリストが私の内に生きておられ、私の人生を共に歩んでくださることを信じて生きる生き方である。これほど大きな恵みはない。キリストによる束縛ではなく、キリストによる自由である。もしも、、、してはならない、、、しなさいという神の命令を守らなければならないという義務感でクリスチャンライフを送っているならば息苦しいし、律法的になって人をさばくようになる。そうではなく、救われた喜びをあらわし、恵みに感謝してのうちに生きる時に、御霊の導きにより、できるようにして下さるのである。それは信仰のゆえにできることである。